

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容(指示)にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味

**警告**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。

**注意**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号

**ポイント**

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。



- 取付説明の内容全体(個々の説明枠)にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。

**補足**

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

<施工の前に>

**警告**

- 門扉は人や車の出入りする場所に設置するものです。使用用途・目的を踏まえた上で必ず安全な場所に設置してください。特に開閉時の扉が公道(道路面)に飛び出さないようにしてください。

**注意**

- 商品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 指定寸法は必ず守ってください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。

<施工上のご注意>

**注意**

- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具(保護帽、安全带、眼、手、足の保護具)を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。

<施工上のご注意 つづき>

⚠ 注意

- 外開きタイプでは開閉時に扉が公道（道路面）等へ飛び出さない位置に設置してください。
- 寒冷地では、門柱に水抜き穴をあけてください。
- 施工終了後は扉の開閉チェックを行ない、不具合がないか確認してください。

<基礎工事について>

⚠ 注意

- 基礎は弊社指定の寸法以上にしてください。
- 寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。
- 基礎部の埋込み深さは製品ごとに決めています。現場によって（堅牢な地盤、軟弱な地盤など）基礎部のコンクリートの量（体積）を十分配慮してください。
- 塩分を含む砂および塩素系のモルタル混和剤は使用しないでください。腐食の原因になります。
- コンクリート（またはモルタル）には、急結剤は使用しないでください。使用するとアルミが腐食する原因になります。

🔑 ポイント

- 柱の施工寸法に狂いが生じてないか、確認してから養生してください。
許容範囲を外れると以下の不具合が発生するおそれがあります。
 - ・本体の設置ができなくなります。
 - ・施錠ができなくなります。
 - ・施工後、正常な開閉ができなくなります。

■梱包明細表

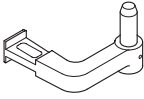
【1】柱セット

名 称	略 図	員 数			
		標準柱		ロング柱	
		片引き	開戸付き	片引き	開戸付き
ガイド柱		1	1	1	1
戸当柱		1	-	1	-
吊元柱		-	1	-	1
柱施工治具A		1	1	1	1
柱施工治具B		-	1	-	1
サポート柱		-	-	1	1
調整金具H (上)		-	1	-	1
調整金具H (下)		-	1	-	1
アンカー棒		2	2	2	2
ワッシャー		-	2	-	2
【1-1】 M5×12トラス小ネジ		-	8	-	8
【1-2】 φ4×30ナベタッピンネジ3種 (※1)		3	-	3	-
【1-3】 φ4×40ナベタッピンネジ3種 (※1)		-	5	-	5
【1-4】 M4六角ナット		-	2	-	2
取付説明書 (A545)	-	1	1	1	1

※1引戸W15の場合1本余ります。

【2】外開き用持送りセット

オプション

名 称	略 図	員 数
外開き用持送り		2

1. 基本寸法図

- ※図は引戸が右引き、開戸が左勝手(右引き用)です。
- ※図はH12を示します。[]内寸法はH10を示します。
- ※< >内寸法は片面シリンダー錠 **オプション** の場合を示します。

1-1 標準柱

(1) 標準片引き

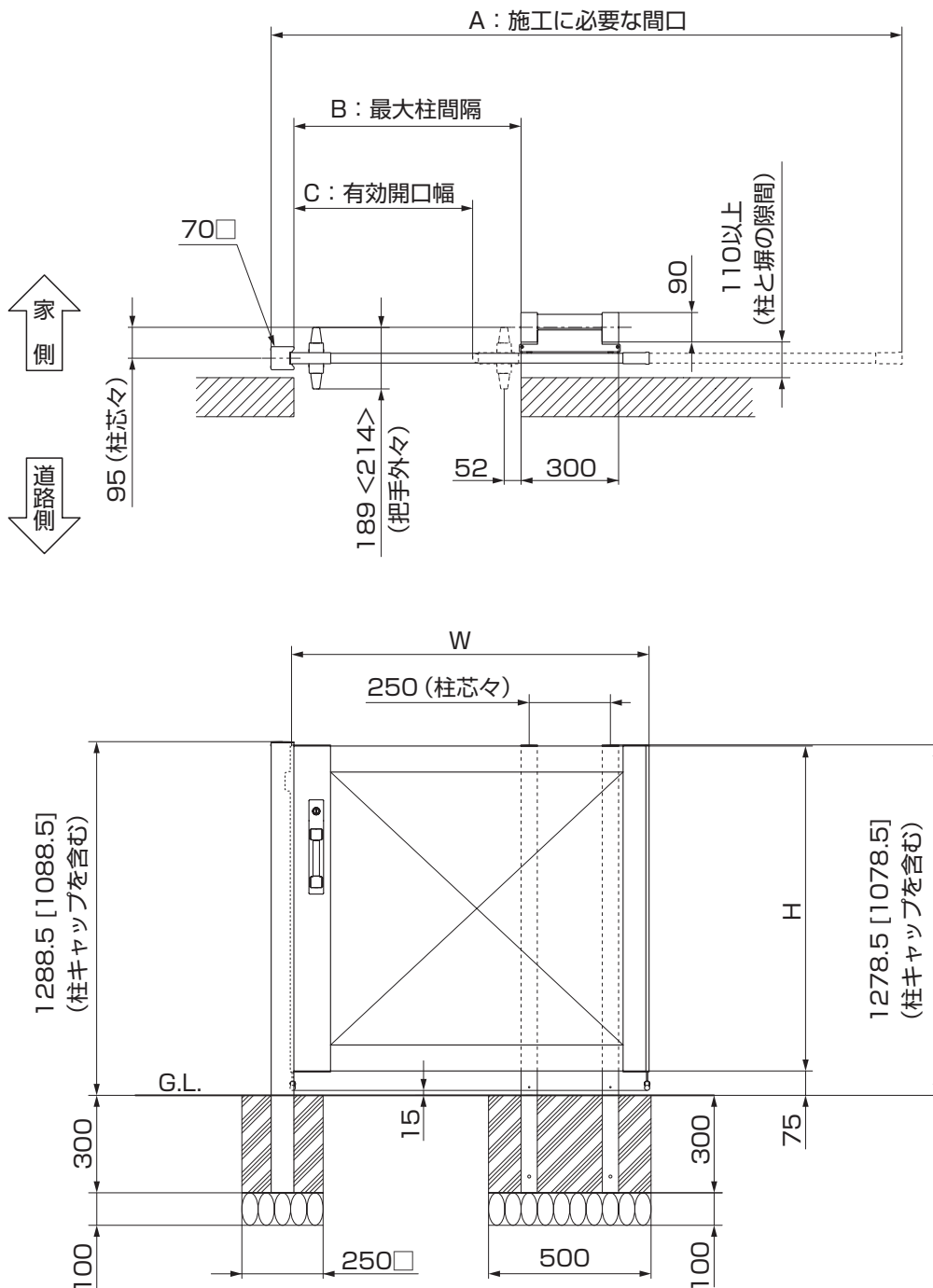


表1-1

呼称	H
H10	1000
H12	1200

表1-2

呼称	W	A	B	C
W13	1300	2141	899	751
W15	1500	2541	1099	951

(2) 標準柱開戸付き

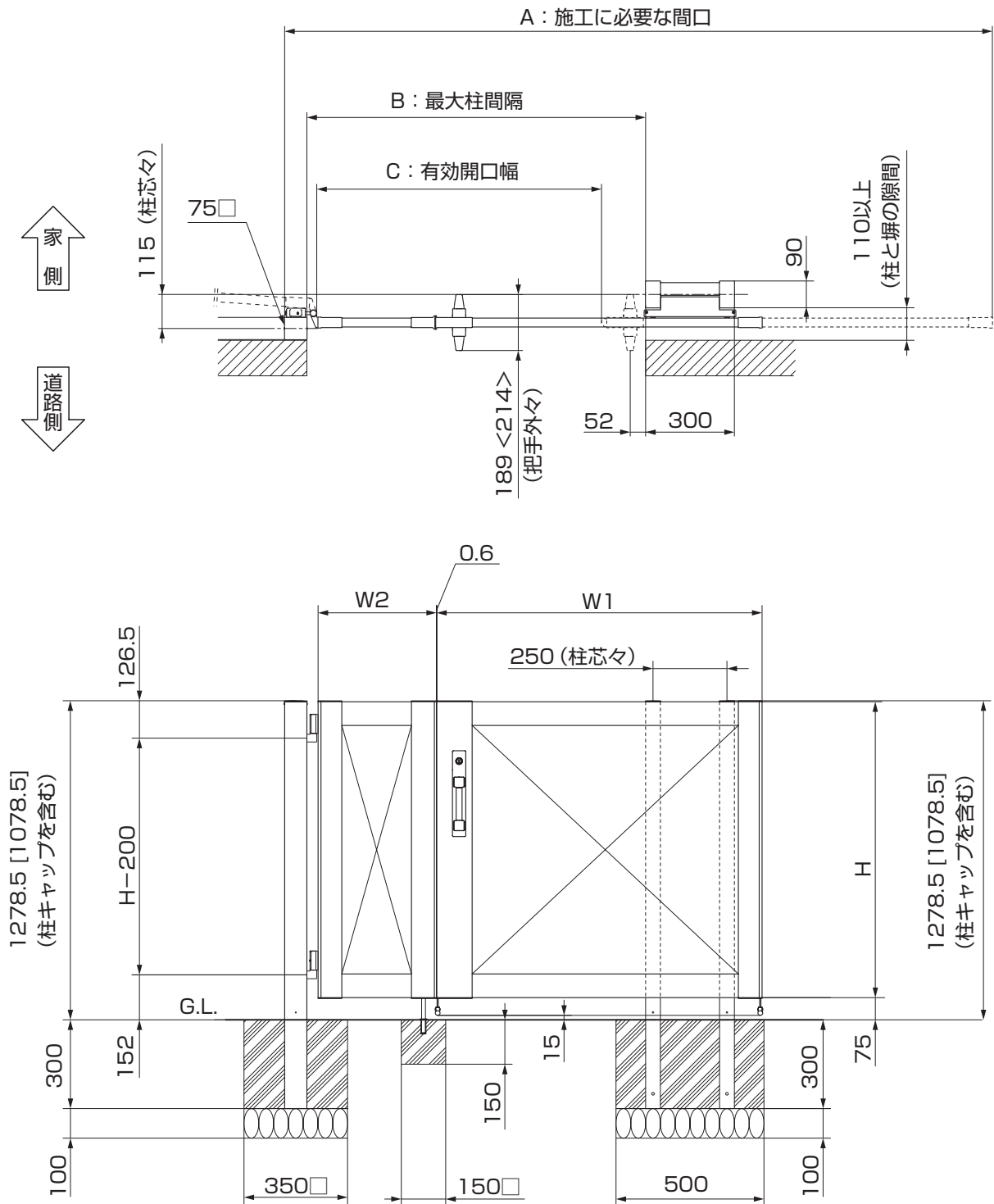


表1-3

呼称	H
H10	1000
H12	1200

表1-4

呼称	W1	W2	A	B	C
WO4+W13	1300	400	2592	1345	1163.5
WO4+W15	1500	400	2992	1545	1363.5

1. (つづき)

1-2 ロング柱 ※図はステップ高さが200mmの場合を示します。

(1) ロング柱片引き

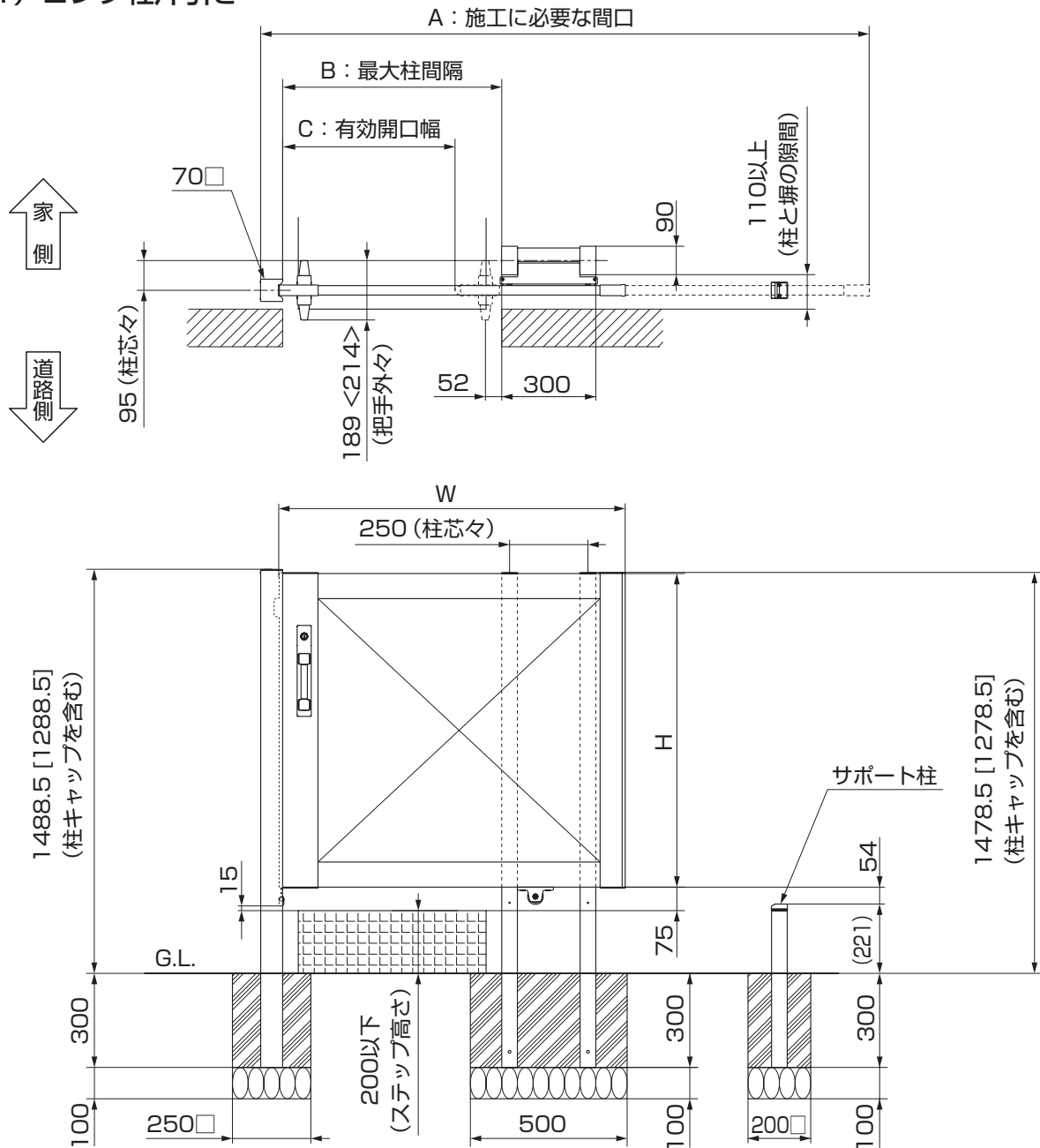


表1-5

呼称	H
H10	1000
H12	1200

表1-6

呼称	W	A	B	C
W13	1300	2141	899	751
W15	1500	2541	1099	951

⚠ 注意

- ステップの位置・出幅や、サポート柱の施工位置を考慮し、安全に操作できる場所に製品を設置してください。

✎ 補足

- サポート柱の施工については、「アーキスライド -本体- 取付説明書 (A544)」を参照してください。

(2) ロング柱開戸付き

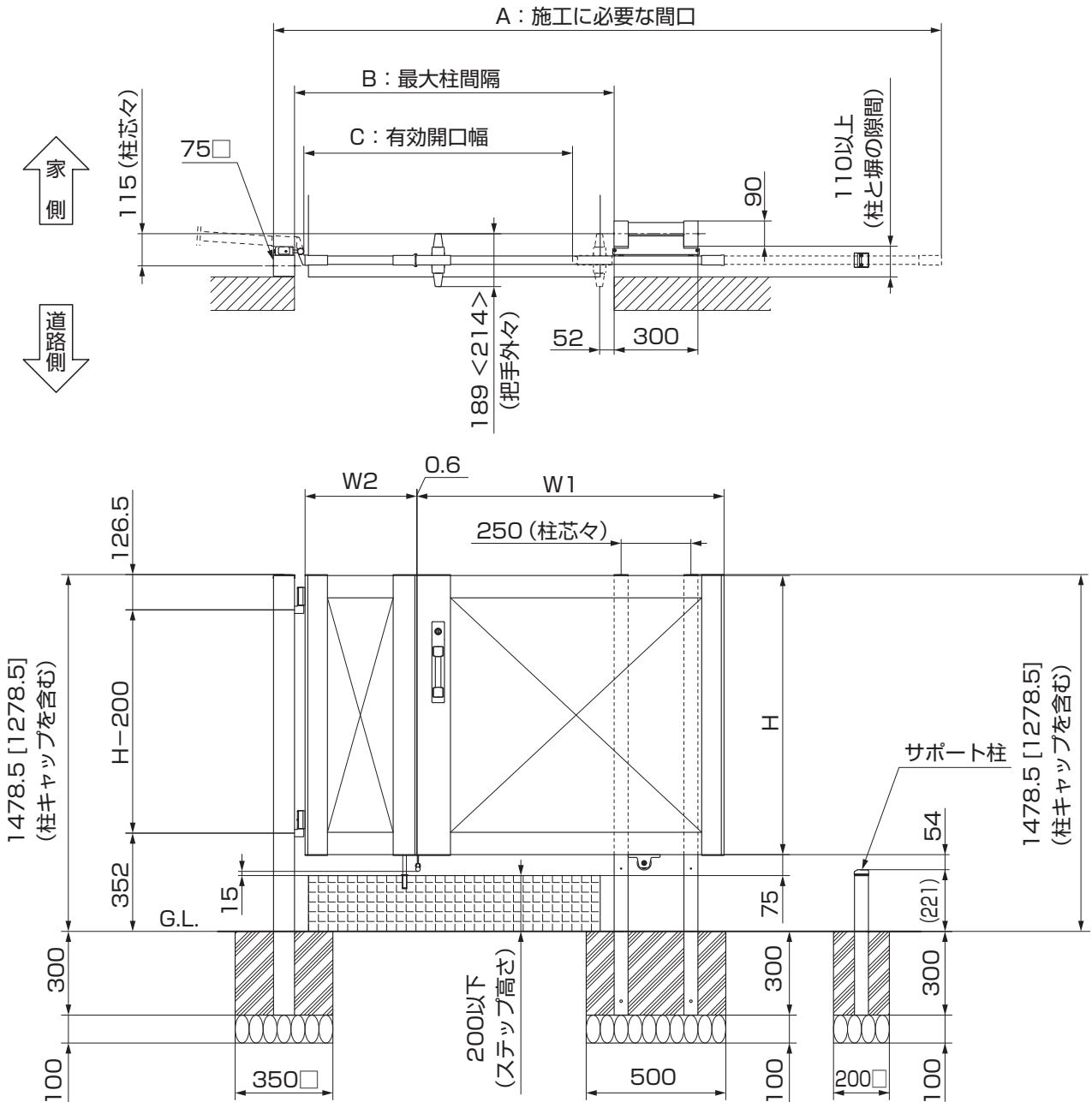


表1-7

呼称	H
H10	1000
H12	1200

表1-8

呼称	W1	W2	A	B	C
WO4+W13	1300	400	2592	1345	1163.5
WO4+W15	1500	400	2992	1545	1363.5

⚠ 注意

- ステップの位置・出幅や、サポート柱の施工位置を考慮し、安全に操作できる場所に製品を設置してください。

✎ 補足

- サポート柱の施工については、「アーキスライド - 本体 - 取付説明書 (A544)」を参照してください。

2. 埋込み前の準備

2-1 柱施工治具取付穴の加工 ※片引きの場合のみの作業です。 ※図は右引きを示します。

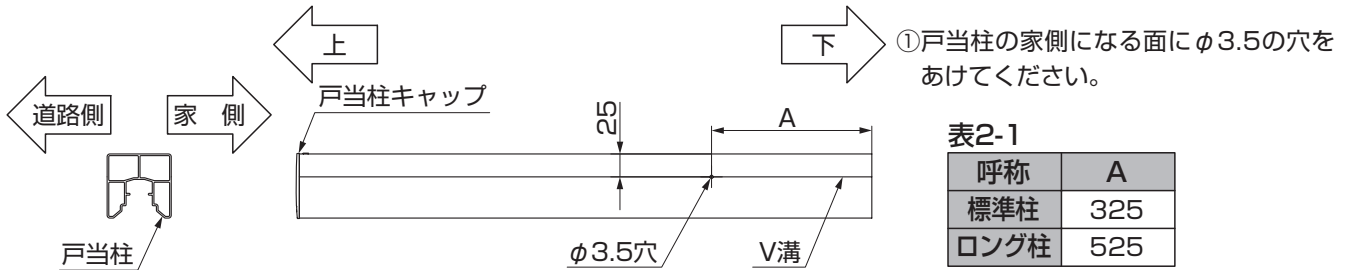
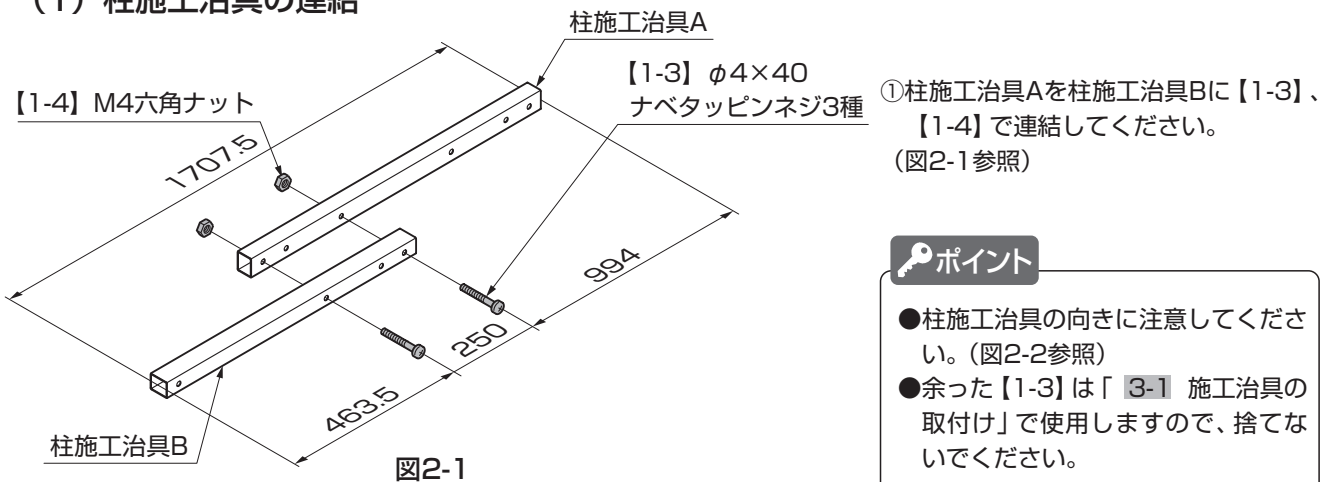


表2-1

呼称	A
標準柱	325
ロング柱	525

2-2 開戸付きの場合

(1) 柱施工治具の連結



ポイント

- 柱施工治具の向きに注意してください。(図2-2参照)
- 余った【1-3】は「3-1 施工治具の取付け」で使用しますので、捨てないでください。

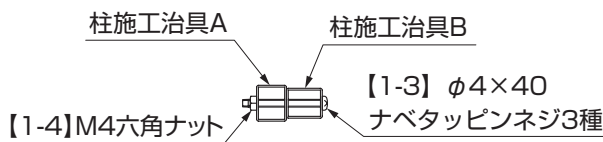
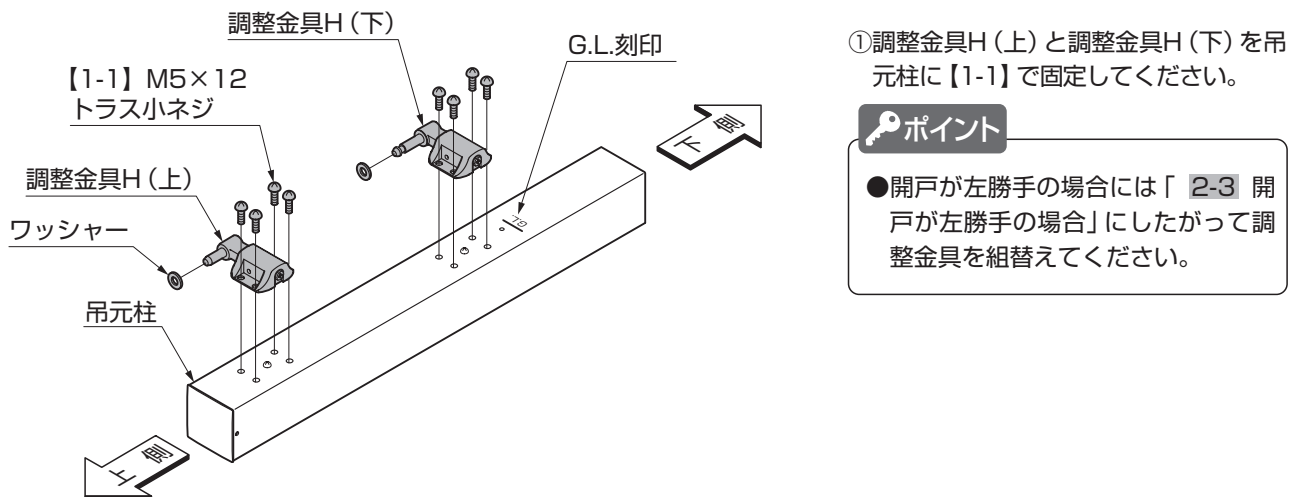


図2-2 柱施工治具断面

(2) 吊元柱への調整金具の取付 ※図は開戸右勝手を示します。



ポイント

- 開戸が左勝手の場合には「2-3 開戸が左勝手の場合」にしたがって調整金具を組替えてください。

2-3 開戸が左勝手の場合

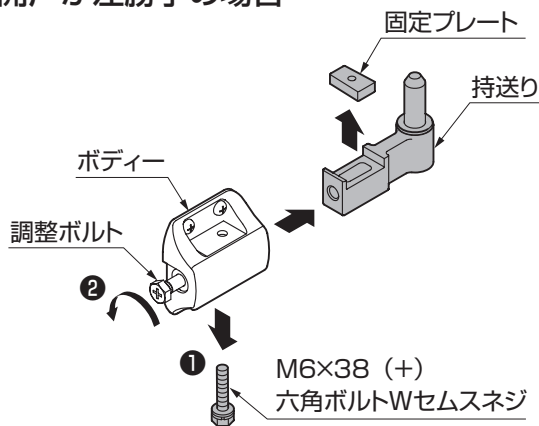


図2-3 部品の取外し

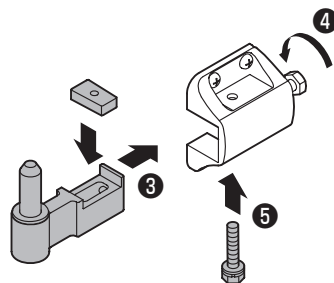
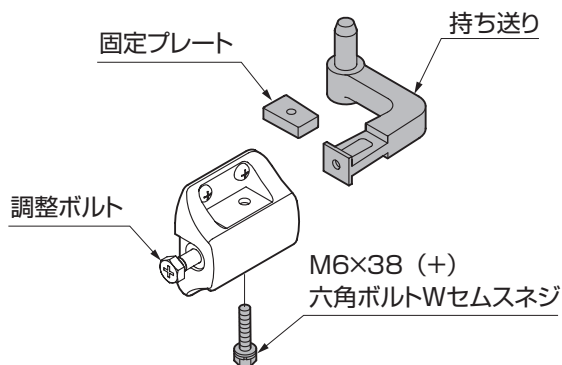


図2-4 部品の組替え

- ①「M6×38 (+) 六角ボルトWセムスネジ」を外してください。
- ②調整ボルトをゆるめて持送りと固定プレートを外してください。
- ③ボディの向きを変え、持送りに固定プレートを乗せてボディに挿入してください。
- ④調整ボルトを締めてください。
- ⑤「M6×38 (+) 六角ボルトWセムスネジ」を締め、持送りを固定してください。

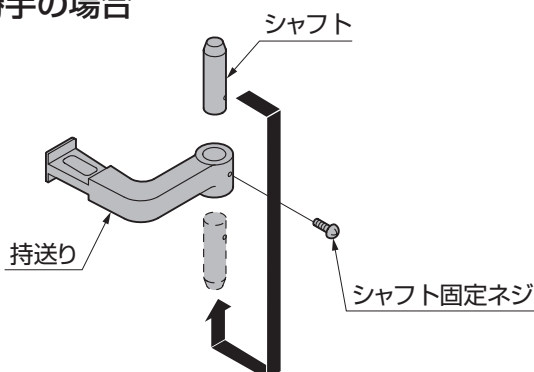
2-4 外開き用持送りの組立て **オプション** ※図は開戸右勝手を示します。

(1) 持送りの組替え



- ①「M6×38 (+) 六角ボルトWセムスネジ」を外し、調整ボルトをゆるめて持送りを組替えてください。

(2) 左勝手の場合



- ①シャフト固定ネジを外し、シャフトを組替えてください。

ポイント

- 調整金具の組替えは「2-3 開戸が左勝手の場合」を参照してください。

3. 柱の埋込み ※図は引戸が右引き、開戸が左勝手です。

3-1 柱施工治具の取付け

(1) 片引きの場合

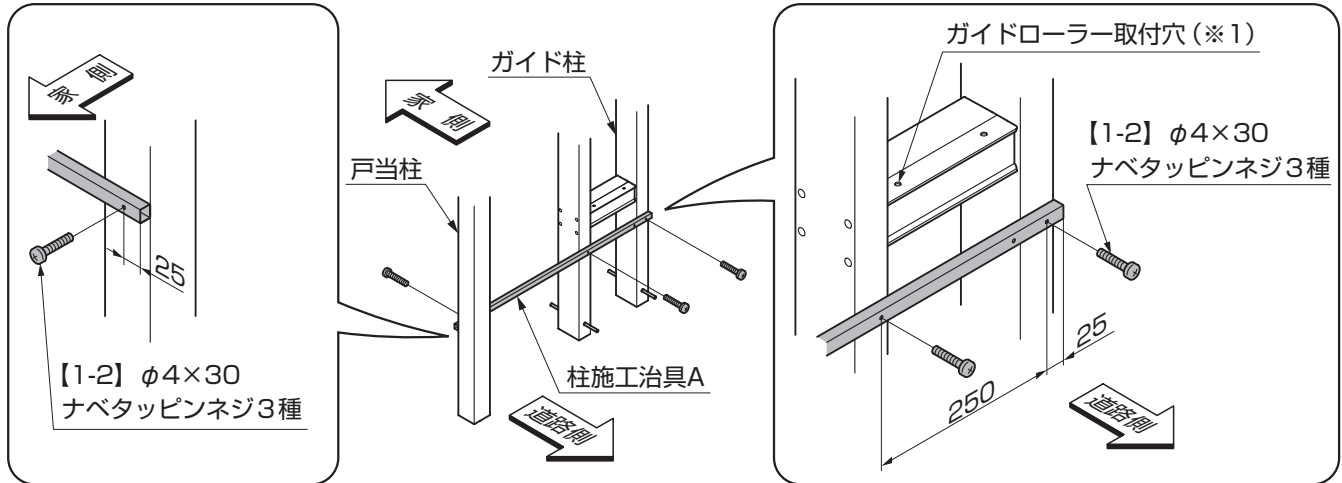


図3-1 片引きW13の場合

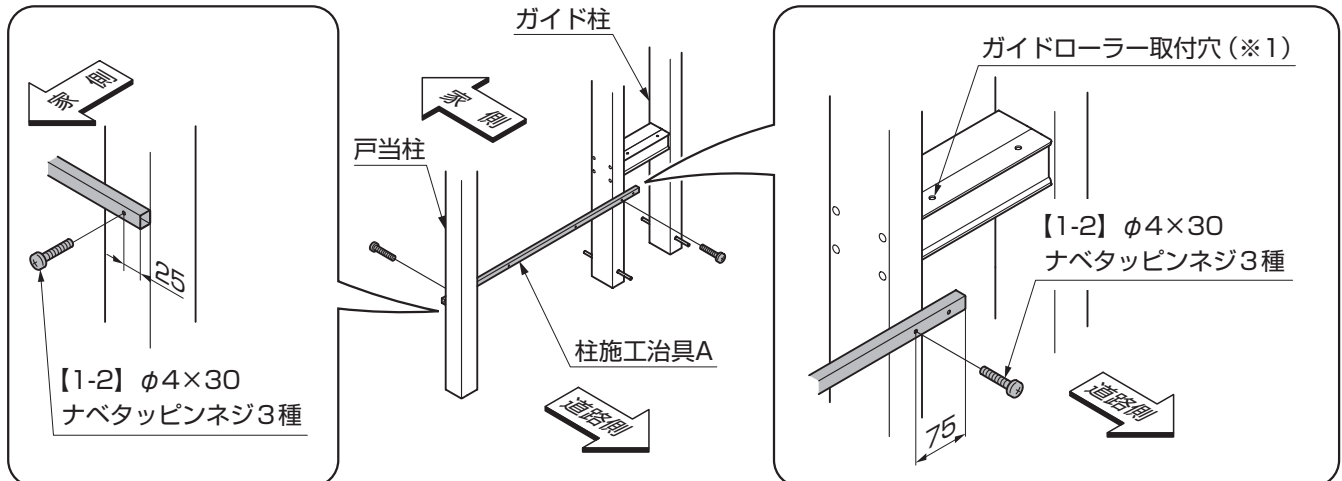
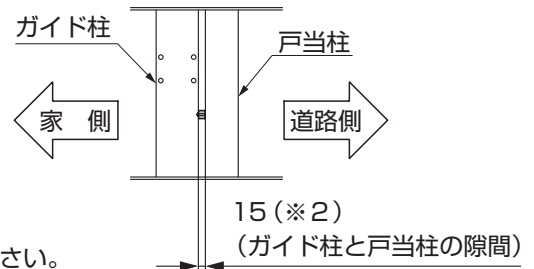


図3-2 片引きW15の場合



①柱施工治具を図3-1、図3-2にしたがって【1-2】で固定してください。

ポイント

- ガイド柱はガイドローラー取付穴を道路側にして取付けてください。(※1)
- 施工治具は引戸本体のWサイズによって取付け位置が異なります。必ずWサイズを確認して取付けてください。
- ガイド柱と戸当柱の隙間が15mmであることを確認してください。寸法が大きくと外れると引戸本体が戸当柱に納まらなくなります。(※2)

補足

- W15の場合、【1-2】は1本余ります。余ったネジは使用しません。

(2) 開戸付きの場合

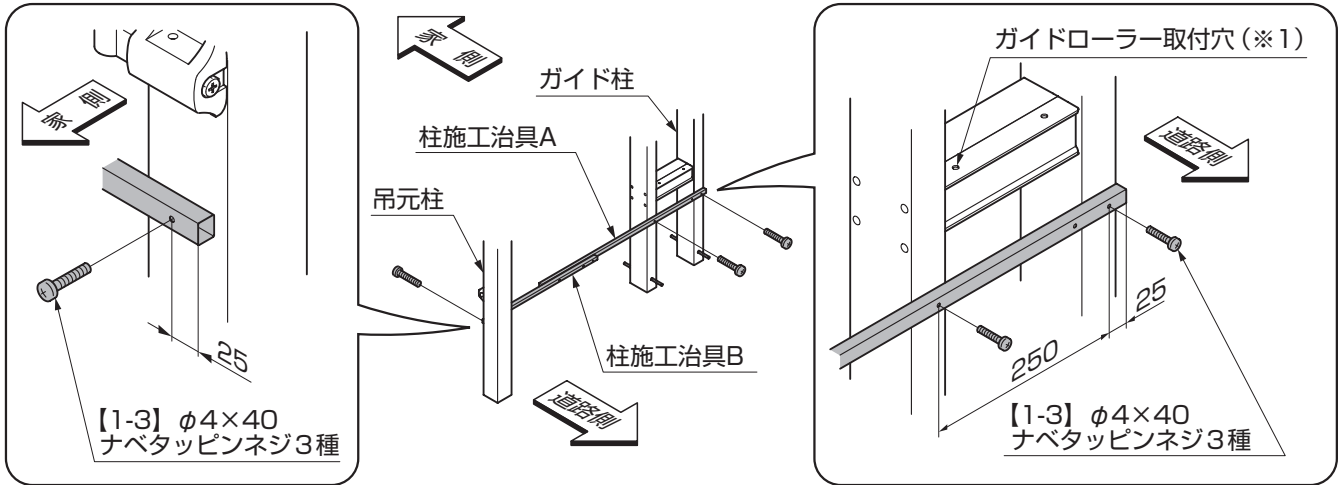


図3-3 開戸付きW13の場合

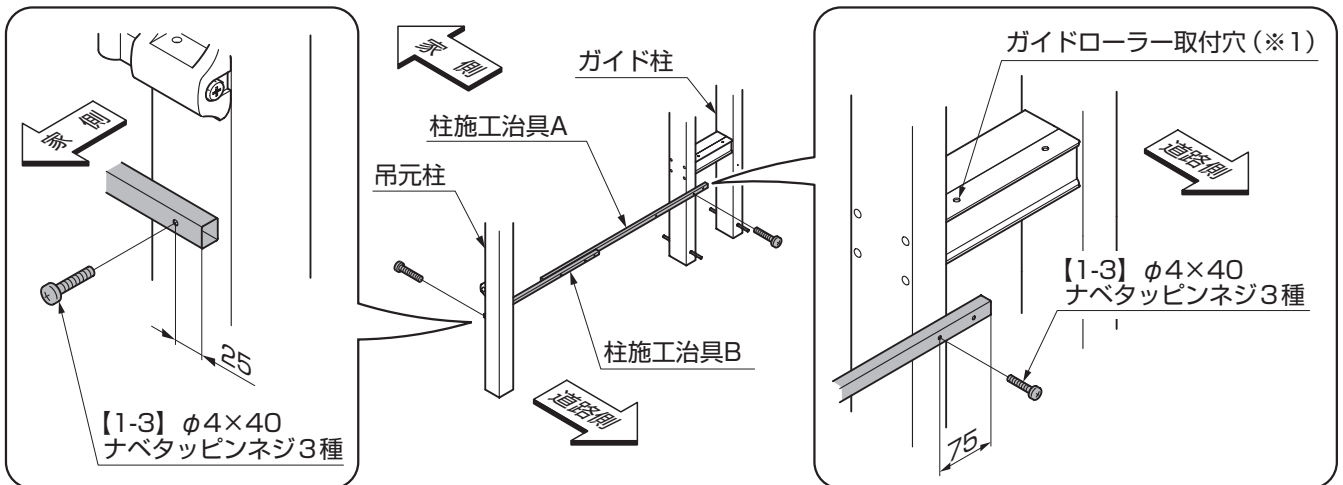


図3-4 開戸付きW15の場合

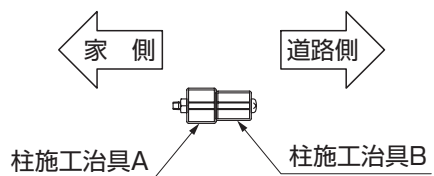
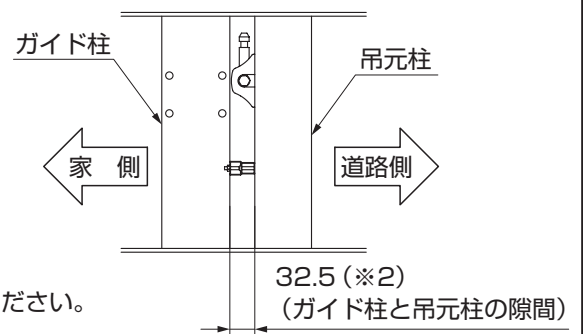


図3-5 柱施工治具断面



①柱施工治具を図3-3、図3-4にしたがって【1-3】で固定してください。

ポイント

- ガイド柱はガイドローラー取付穴を道路側にして取付けてください。(※1)
- 施工治具は引戸本体のWサイズによって取付け位置が異なります。必ずサイズを確認して取付けてください。
- 柱施工治具の向きに注意してください。(図3-5参照)
- ガイド柱と吊元柱の間隙が32.5mmであることを確認してください。寸法が大きくと外れると引戸本体が開戸に納まらなくなります。(※2)

補足

- W15の場合、【1-3】は1本余ります。余ったネジは使用しません。

3. (つづき)

- 3-2 柱の埋込み** ※図は引戸が右引き、開戸が左勝手(右引き用)を示します。
 ※図は引戸本体W15を示します。

(1) 標準柱の場合

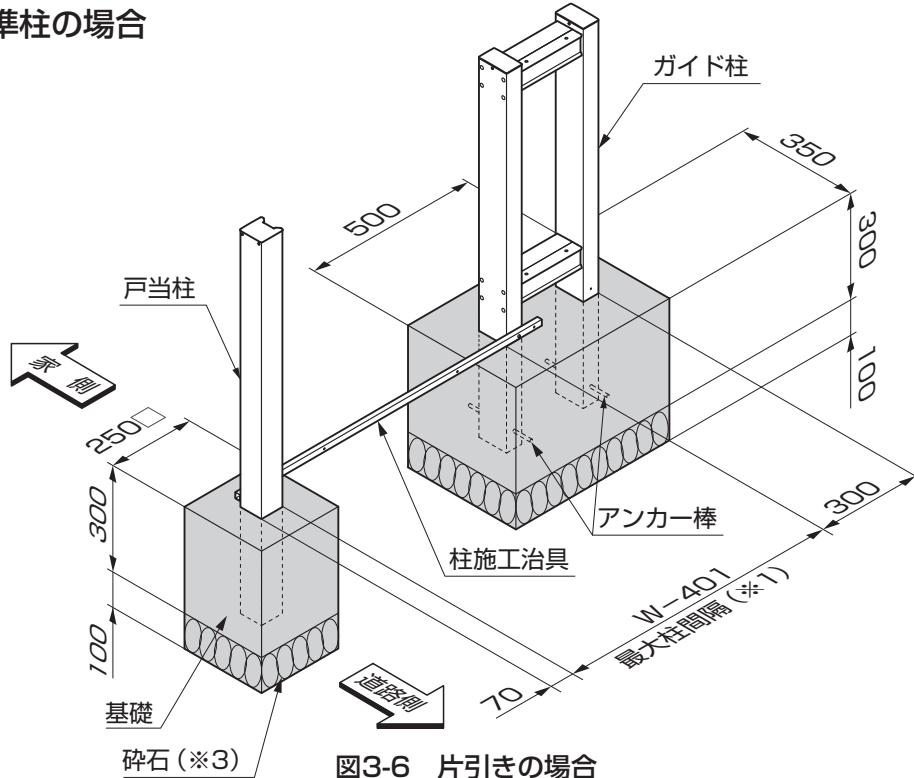


図3-6 片引きの場合

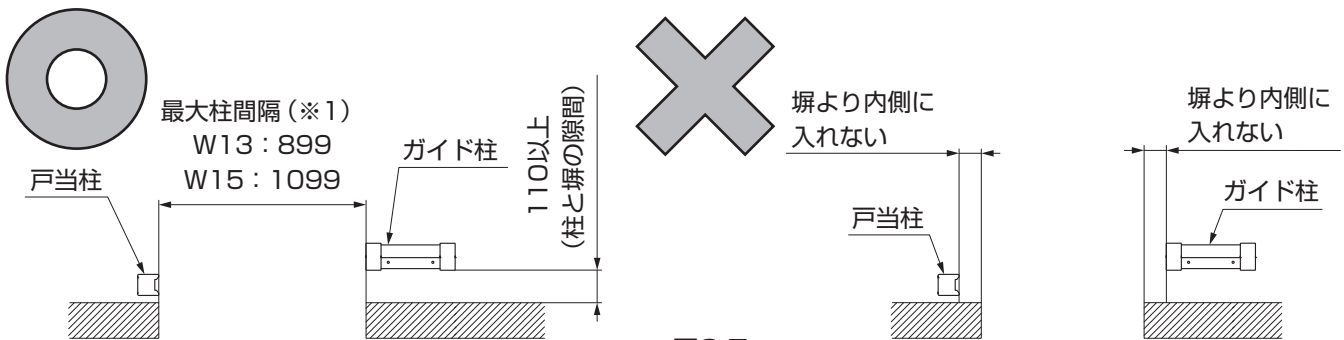


図3-7

①柱を施工図を参照してコンクリートで固定してください。

⚠ 注意

- ガイド柱は扉端部より内側に施工しないでください。扉端部より内側に施工すると、引戸本体のハンドルが扉にあたって破損したり、開閉時にケガをするおそれがあります。(図3-7、図3-9参照)
- 片引きの場合、戸当柱は扉端部より内側に施工しないでください。扉端部より内側に施工すると、引戸本体のハンドルが扉にあたって破損したり、開閉時にケガをするおそれがあります。(図3-7参照)

🔑 ポイント

- 柱の施工は、柱施工治具を使用して正確に設置してください。(「3-1 柱施工治具の取付け」参照)
- 柱は正確に垂直を出してから固定してください。
- ガイド柱には、必ずアンカー棒(2箇所)を取付けてください。
- 戸当柱の受け側後方は、キャップ取外しのために空間を設けてください。
- 柱の内々寸法は必ず最大柱間隔以内に納めてください。これより広いと錠がかからなくなります。(※1)(※2)
- 柱施工治具は、コンクリート硬化後取外してください。

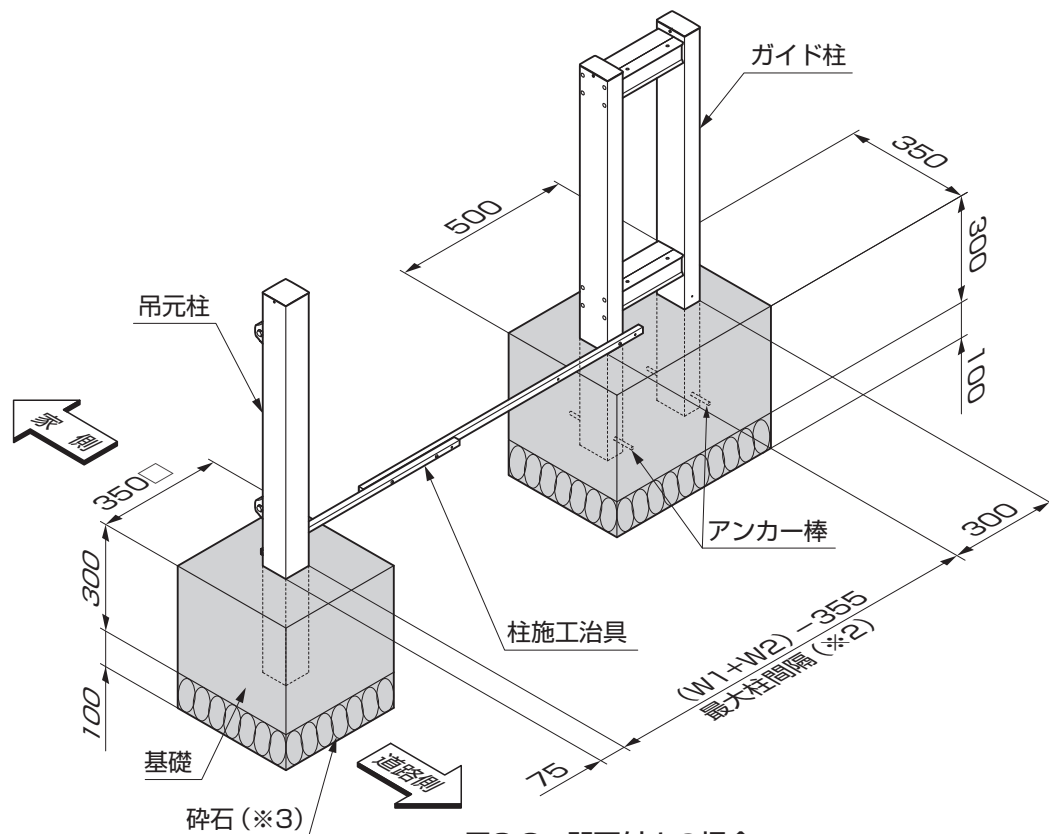


図3-8 開戸付きの場合

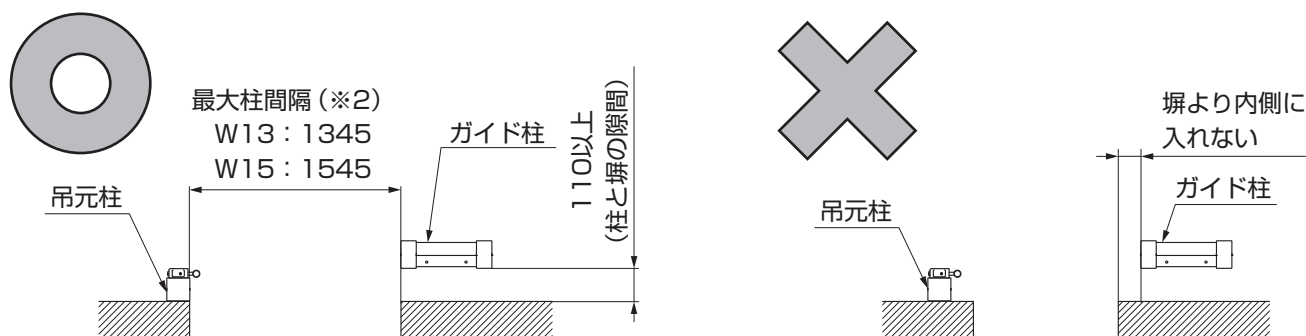


図3-9

補足

- 柱の基礎は、必ず基礎下に100mm厚の碎石を施工する等して水が抜ける構造にしてください。(※3)
- 施工治具取付穴は、施工治具を取外した後、水抜き穴になります。
- 基礎寸法は指定寸法以上にしてください。(図3-6、図3-8)
- 扉の裏側に設置する場合は、ガイド柱を扉より110mm以上離して扉と平行に設置してください。引戸本体を取付けることができなくなる場合があります。(図3-7、図3-9参照)
- 扉に凹凸がある場合や、引戸本体を扉と平行にスライドすることができない敷地では、ガイド柱をさらに扉から離し、余裕をもって引戸本体をスライドできるようにしてください。
- 開戸付きの場合、落とし棒受けの取付け位置は「アーキスライド-本体- 取付説明書 (A544)」を参照してください。

3. (つづき)

3-2 つづき

(2) ロング柱の場合

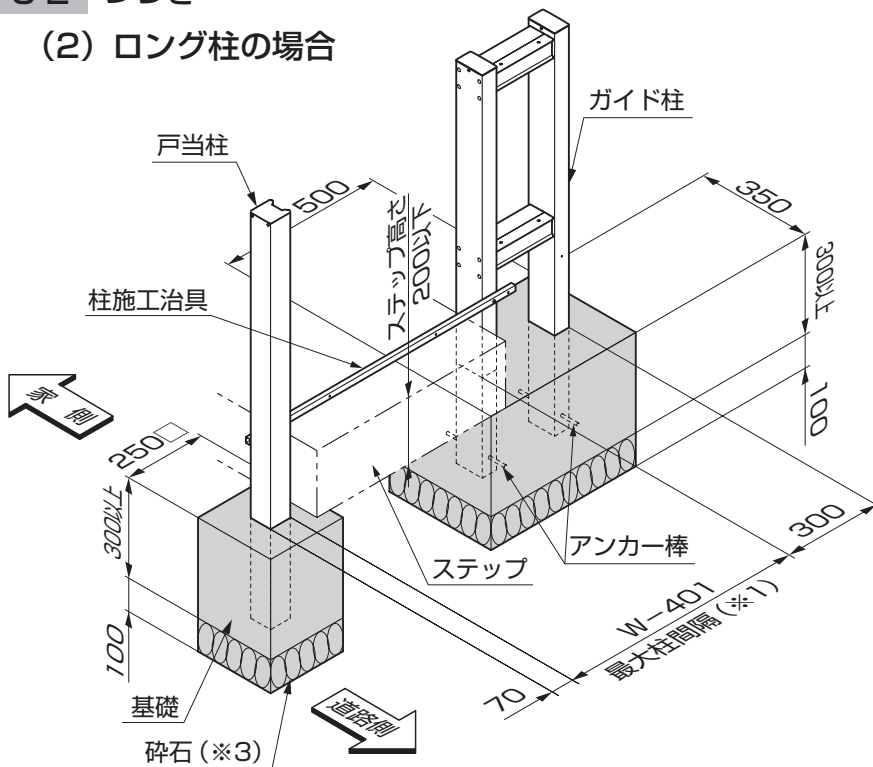


図3-10 片引きの場合

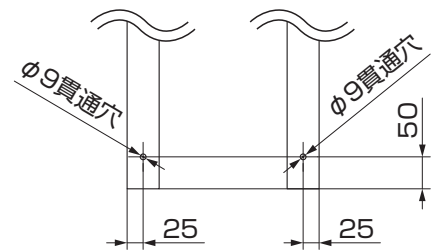


図3-12

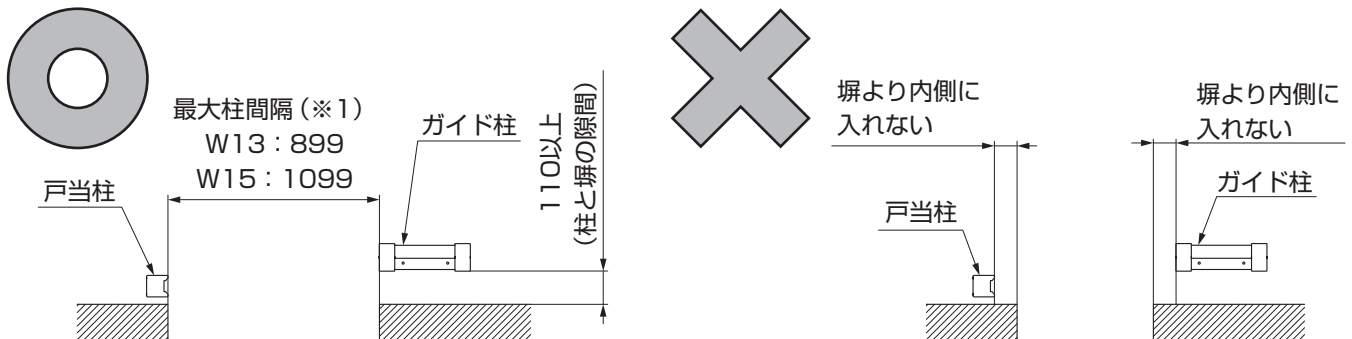


図3-11

①ステップ仕上がり上面と扉本体との間が75mmになるように柱の埋込み深さを調整してください。

補足

- 埋込み深さが深すぎる場合は、柱下端部を切断して埋込んでください。この時、埋込み深さを300mm以上必ず確保してください。
- ガイド柱を切断した場合は、アンカー棒取付穴をあけなおしてください。(図3-12、図3-15参照)
- ステップ高さが200mm未満の場合、G.L.刻印は、G.L.より下になります。

②柱を施工図を参照してコンクリートで固定してください。

注意

- ガイド柱は扉端部より内側に施工しないでください。扉端部より内側に施工すると、引戸本体のハンドルが扉にあたって破損したり、開閉時にケガをするおそれがあります。(図3-11、図3-14参照)
- 片引きの場合、戸当柱は扉端部より内側に施工しないでください。扉端部より内側に施工すると、引戸本体のハンドルが扉にあたって破損したり、開閉時にケガをするおそれがあります。(図3-11参照)

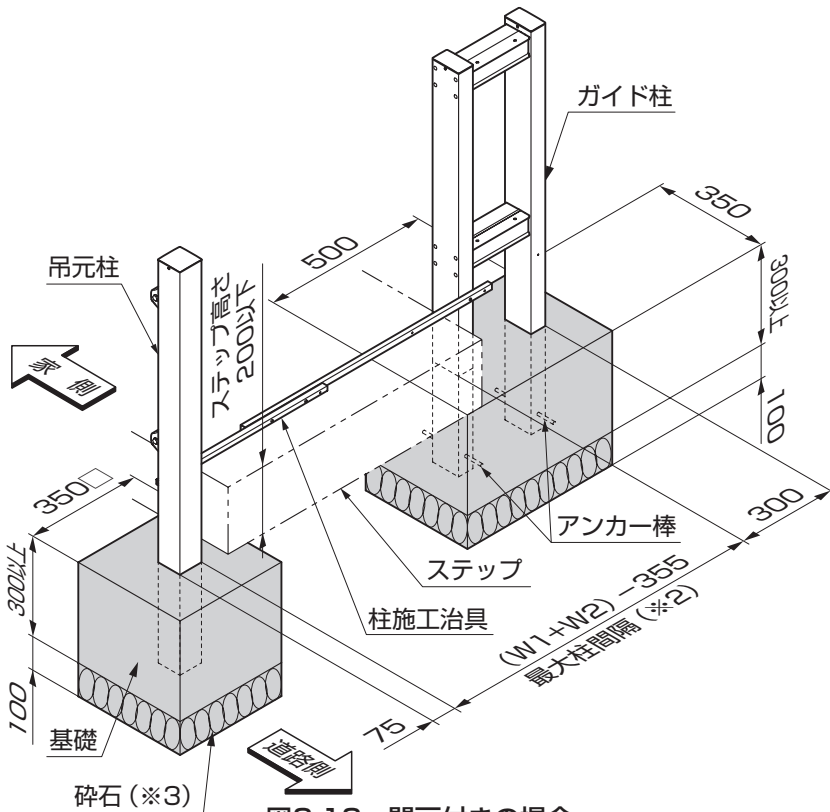


図3-13 開戸付きの場合

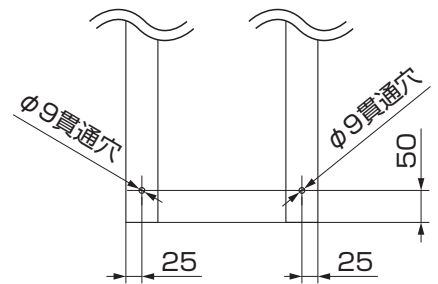


図3-15

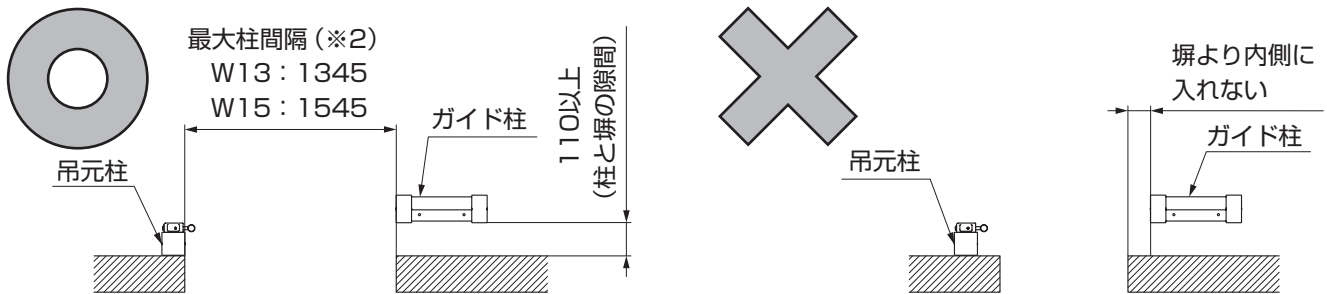


図3-14

ポイント

- 柱の施工は、柱施工治具を使用して正確に設置してください。(「3-1 柱施工治具の取付け」参照)
- 柱は正確に垂直を出してから固定してください。
- ガイド柱には、必ずアンカー棒(2箇所)を取付けてください。
- 戸当柱の受け側後方は、キャップ取外しのために空間を設けてください。
- 柱の内々寸法は必ず最大柱間隔以内に納めてください。これより広いと錠がかからなくなります。(※1)(※2)
- 柱施工治具は、コンクリート硬化後取外してください。

補足

- 柱の基礎は、必ず基礎下に100mm厚の砕石を施工する等して水が抜ける構造にしてください。(※3)
- やむをえず水が抜けにくい構造になった場合はG.L.面より5mm程度上部の柱側面家側にφ5の水抜き穴をあけてください。
- 基礎寸法は指定寸法以上にしてください。(図3-10、図3-13参照)
- 扉の裏側に設置する場合は、ガイド柱を扉より110mm以上離して扉と平行に設置してください。引戸本体を取付けることができなくなる場合があります。(図3-11、図3-14参照)
- 扉に凹凸がある場合や、引戸本体を扉と平行にスライドすることができない敷地では、ガイド柱をさらに扉から離し、余裕をもって引戸本体をスライドできるようにしてください。
- サポート柱の施工については、「アーキスライド - 本体 - 取付説明書(A544)」を参照してください。
- 開戸付きの場合、落とし棒受けの取付け位置は、「アーキスライド - 本体 - 取付説明書(A544)」を参照してください。

取説コード

A545

JZZ621435C
201104A_1039
201607D_1049